

# 視察報告書

報告者：磯部 亮次

視 察 日	平成 28 年 11 月 15 日 (火)
視 察 内 容	神石高原町：ピースワンコジャパンについて
視 察 者	山崎 憲伸 野本 篤 磯部 亮次

## [神石高原町の位置と地勢]

神石高原町は、広島県の東部に位置し、面積は 381,81k m<sup>2</sup>、人口は 9,567 人である。中国山地が広島県東部で南に張り出した高原地形の中に位置しており、福山市から約 30km の標高 400~500m の中山間地域である。



## [ピースワンコジャパンの概要]

ピースワンコジャパンは、世界規模で活動する特定非営利活動法人ピースウィンズジャパンが、犬の殺処分ゼロと人と犬が力を合わせて社会を元気にすることを目指し設立した NPO 団体である。現在は、保護犬事業、災害救助犬育成事業、教育・啓発事業、地域再生事業に取り組んでいる。

## [神石高原町とピースワンコジャパンとの連携について]

広島県は、2011 年に殺処分数が全国ワーストワンとなる。その汚名を返上するため、動物愛護管理推進計画を策定し殺処分の 5 割減を目標として、2012 年から、引き取りの有料化や定点回収の縮小を行っている。

しかしながら、神石高原町は、人口減少とともに犬の登録件数は減少傾向にあるが、高齢化率の上昇により、止むを得ず、定点回収に飼い犬を引き渡す事例が増えてきていた。

2013 年より町施設の公園を災害救助犬育成のため借用し活動しているピースワンコジャパンより犬の殺処분을ゼロにする活動を町と共に取り組みたい、といった申し入れがあり、神石高原町動物愛護行動計画を定めた。

## [活動の内容]

神石高原町の使用していない山中の広大な公園敷地をピースワンコジャパンが借り受け、一部をドッグランにして愛犬家及び保護した犬の訓練場に、動物行政において先進的であるドイツの施設を参考にしたドッグシェルターを開設し、そこに広島県の動物保護センター・神石高原町の保護した内、殺処分対象の犬を引き取り、譲渡に適するように飼育し、譲渡を全国各地で行っている。

また、セラピー、救助犬も育てており、そこで育った救助犬、夢乃丞が広島市で起きた土砂災害の際、活躍した。また、今年 4 月に起きた、熊本地震についても、災害

救助犬は行方不明者捜索を行ってきた。

この10月からは私塾を開講し、保護活動と飼育技術の向上を目指した人材教育も行っている。



### [三方よしの取り組み]

ピースワンコジャパンの年間にかかる活動経費は2億円であり、自身で捻出しているわけであるが、そのほとんどが寄付金によるものである。2014年から町のふるさと納税の用途メニューに組み込むことにより、ピースワンコジャパンも町も寄付者も三方よしのシステムを構築することができている。

2015年の実績として、寄付金は3億8000万円集まった。その内の1900万円は町へ、残り3億6100万円が活動費に組み込めた。

2016年は現在のところ5億円の寄付がすでに集まっている。ピースワンコジャパンとしては、借りている公園敷地の指定管理にも乗り出し、公園整備をしつつ、新事業も展開しながら、雇用の創出を図っている。

SIMなし 14:10 jinsekigun.jp 99%

●【家族構成、給与収入、寄附金額ごとのセアルゲーム】はこちら

総務省のページ  
[http://www.soumu.go.jp/menu\\_kyotsuu/important/pdf/080430\\_2\\_kojin\\_bt4.pdf](http://www.soumu.go.jp/menu_kyotsuu/important/pdf/080430_2_kojin_bt4.pdf)

---

**寄附金の使い道を、7つの応援メニューから選んでいただけます。**

- (1) 教養のまち「神石高原町」を推進
- (2) 学習環境の整備、小中高連携教育の支援
- (3) 子育て支援、若者定住支援
- (4) 高齢者、障がい者支援
- (5) 水源の里まちづくり支援
- (6) 寄附を希望する団体（町内の自治振興会）を指定
- (7) 寄附を希望する団体（町内に主たる事務所を置くNPO法人）を指定

がんばる神石高原町ふるさと応援寄附金では、寄附の対象となる団体をご指定いただけます。ご指定いただける団体は、住民自治組織「自治振興会」、町内のNPO法人が対象になります。  
お寄せ頂いた寄附金の9.5%を支援を希望される団体に対し、団体活動を支援するための交付金として交付します。5%は町が行う団体支援等の事業に活用させていただきます。  
(注意) 寄附することで寄附者が特別の利益を受ける場合は、税金の寄附金控除は受けられません。

---

**寄附を希望する団体を指定**

● 町内の自治振興会の支援（一覧）

「自治振興会」とは、概ね旧小学校区単位の地域住民により構成され、地域住民が主体的かつ自主的に地域の課題に対応し、活力ある地域づくりを行うなど、住民と行政の協働を基調としたまちづくりを推進する住民主体の組織です。自治振興会の主な活動内容は次のページをご覧ください。  
[自治振興会一覧](#)

(10)仙養西自治振興会		
--------------	--	--

町内NPO法人の支援

支援対象となるNPO法人	活動の目的・内容
(1)地域再生プロジェクト	<p>地域住民を中心に学識経験者等、意欲のある人材で構成。神石高原活性化のため、道の駅さんむ182ステーションにおいて、「自然食レストラン高原の風」を運営。地元でとれる新鮮な食材を使い、古くから受け継がれてきた安心安全で懐かしい「郷土料理」を都市住民に提供することにより、雇用の創出、食を通じた「まちづくり」に貢献している。また、神石高原町井関大矢自治振興会や農事組合法人「黄金の里井関」、愛媛県上島町弓削島のNPO法人弓削の荘などと連携して、加工品開発（6次産業化）や都市農村交流事業にも取り組んでいる。</p> <p>東日本大震災後、宮城県気仙沼市（大島地区）にて被災者の通院、買い物などの交通手段の確保を目的に、カーシェアリング事業を実施した。  <a href="#">詳しくはこちら（地域再生プロジェクトのホームページリンク）</a></p>
(2)高齢社会を生きる会	<p>高齢者をはじめとする住民に対して介護支援事業を行い、地域福祉の発展、住みやすい町づくりの増進に寄与することを目的とする。グループホーム9名と小規模多機能サービス（デイサービス・訪問介護・ショートステイ）登録15名の事業運営を行うとともに、地域福祉活動への支援を行っている。</p>
(3) n i n a 神石高原	<p>地域住民や行政関係者で地域づくりに意欲のある人材で構成。国、地方自治体や民間事業者の要請への対応や、地域住民等と連携を図り、地域の維持再生、魅力ある地域づくりのための調査・研究・実践の取り組み。さらには、神石高原町全体の活性化と公益の増進に寄与する事を目的とする。町内の自治振興会・活性化団体などの支援事業。福島原発被災者の移住支援事業。地域経済の活性化に関する事業（神石高原マルシェ）。社会教育の推進に関する事業（中国語・英語・数学塾）などを行っている。  <a href="#">詳しくはこちら（n i n a 神石高原のホームページリンク）</a></p>
(4)ピースウィンズ・ジャパン	<p>1996年に設立され、イラク・インドネシア、東ティモール、アフガニスタン、南スーダン・ハイチなど世界26か国で、紛争後の難民支援、自然災害の被災者の支援などに携わってきた。2014年4月現在、日本を含む10か国で活動中。最近では過疎地の地域復興や動物愛護などの分野にも活動を広げ、「社会変革」をキーワードとして、行政と連携しながら民間の力を公益の実現に生かす新たなしくみづくりに力を入れている。神石高原町において、町と協力し町内で保護されたり飼育放棄犬の保護調査や引取りに関する事業や広島県の殺処分0への取り組みを積極的に行っている。  <a href="#">詳しくはこちら（ピースウィンズ・ジャパンのホームページリンク）</a></p>
(5)瀬戸内アートプラットフォーム	<p>瀬戸内アートプラットフォームは、世界的にも知られた瀬戸内海の美しい自然景観を生かし、芸術・文化や観光の振興を実現するために活動している。具体的には、美術館と研修宿泊所の運営、アーティストの育成支援</p>

「ふるさと納税」平成27年度実績

平成27年度中に、神石高原町への「ふるさと納税」として、皆さまから14,961件384,885,750円のご寄附を頂きました。本当にありがとうございました。  
 神石高原町では、皆さまがご指定された使いみちに沿って、「人と自然が輝く高原のまち」づくりに活用させていただきます。  
 神石高原町へのふるさと納税は随時受け付けております。今後もご支援よろしくお願いたします。

「ふるさと納税」平成27年度実績

指定された使いみち	件数	寄附金額
教養の町「神石高原町」づくり	15件	259,000円
快適な学習環境と小・中・高連携教育づくり	12件	323,000円
若者が定住する町づくり	21件	340,000円
高齢者・障害者が安心して住みつけられる町づくり	27件	585,000円
水源の里まちづくり	46件	975,000円
町内の自治振興会に対する支援	34件	1,640,000円
町内のNPO法人に対する支援	14,806件	380,763,750円
合 計	14,961件	384,885,750円

寄附申込

● 納付書払い（ゆうちょ銀行の払込取扱票での払い込み）、現金払い、口座振込みの場合

- [ふるさと納税（寄附金）の流れ（PDF形式：112KB）](#) 2015年04月24日
- [申請書ダウンロード（Word形式：80KB）](#) 2016年08月31日
- [申請書ダウンロード（PDF形式：311KB）](#) 2016年08月31日

● クレジットカード、コンビニ、インターネットバンキングで払い込みの場合

- インターネットからカンタンに行えます！  
 ● [Yahoo!公金支払い（外部リンク）](#) 2016年05月30日
- ふるさと納税サイト【ふるさとチョイス】の神石高原町掲載ページへ移動します。  
 ● [F-REGI公金支払い（外部リンク）](#) 2015年01月30日
- （株）エフレジが提供する決済システム「F-REGI」の寄附開始ページへ移動します。

### [感想・岡崎市への反映]

犬猫殺処分の問題は、全国の自治体で苦慮している問題である。多くの税金を投入するのは難しい。岡崎市でも同様に苦慮している。神石高原町においても同様であったが、ピースワンコジャパンと連携したことにより、成果をあげている。

行政は、こういった理念の高いNPO法人と組むことにより、資金面でも、実働の部分でも行政負担が少なくなると同時に、より大きな成果を生むことができる。

ピースワンコジャパンは、全国殺処分0の高い目標を掲げ、活動を全国に広げていく方針である。

そのような背景の中、愛知県でも殺処分を0にしていくのと同時に、公有地の利活用の面でも充実させることを念頭に置いて、将来的な方向性も存続の可否も決まっていない千万町町にある県の野外教育センターを、ピースワンコジャパンのような団体に活動拠点として提供していけるように、岡崎市輩出の県議会議員と連携して実現に向けて提案していく。

また、ピースワンコジャパンと神石高原町の関係のように、民間主体で事を動かしていくシステムは見習うべき点が多く、単に動物愛護の活動だけでなく、すべての活動に対して応用できる仕組みと考える。但し、高い理念と、行動力を備えたキーパーソンが必要であり、人材発掘並びに人材教育にも意識を傾注していく努力は必要である。他にあまり見ることのできない成功例であり、真似をしていく事からの展開でも道は開けていくように感じている。

# 視察報告書

報告者：野本 篤

視 察 日	平成 28 年 11 月 16 日 (水)
視 察 内 容	広島市安佐北区可部町 : NPO 法人 犬猫みなしご救援隊の活動
視 察 者	山崎 憲伸 磯部 亮次 野本 篤

## [可部町について]

かつては広島県安佐郡に存在した町である。1972 年 4 月に広島市に編入され、現在は広島市安佐北区の一部となっている。

## [NPO 法人 犬猫みなしご救援隊の概要]

代 表 者 中谷百里

住 所 広島県広島市安佐北区大字今井田 6 9 0 - 2

スタッフ 職員は少なく、ボランティアの協力が多い

歴 史 1995 年 動物愛護団体犬猫みなしご救援隊設立

2005 年 NPO 法人格取得

2007 年 総床面積 742 m<sup>2</sup>の終生飼養施設を建設

2012 年 東日本大震災動物 320 匹全頭を本拠地広島へ保護

活動目的 人間の身勝手により遺棄、または虐待を受けたり、傷病などで一般家庭では引き取れない犬猫を積極的に引き取り、施設内で「終生飼養」を行っている。

## [視察レポート]

可部駅から車で約 10 分程度の場所に施設がある。予想では山間部にひっそり設置されていると思ったが、以外にも街に近く、民家やタクシー会社などが隣接していた。

到着して早々に雄の乳牛が 2 頭繋がれているのが見えた。代表者が災害支援で行った先で牛がいたのだが、知識がなく手が出せずに悔やんだ経験があり、勉強のために飼育しているとのことであった。正直言って、敷地内および施設内はキレイとは言えない。乱雑に物が置かれていた。しかし、施設内の動物の糞尿が散らばってはいなかった。これはスタッフの日常努力の賜物であることは容易に推測された。

当日、対応していただいたのは代表者である中谷さんであった。印象は、まさに肝っ玉母さんそのものであった。

施設内には約 70 匹の犬と約 600 匹の猫、その他、カラス、タヌキ、サル、ヤギなど多岐にわたる動物が飼育され、猫に関しては一室に足の踏み場に迷うほどの数であった。

猫は夜行性であり、代表者に夜の施設内のことを問うと、もちろん大騒ぎだと笑って話してくれた。また、代表者はこの施設の空いたスペースで寝泊まりしているとのこと。



収容数からみても分かるように、猫が多く、確保された猫の大半は野良ネコの子であり、交通事故の後遺症が残る痛々しい猫の姿が忘れられない。

当日は、愛護センターの職員さんが殺処分の決まった老犬4匹と子猫3匹を車で運んできた。センターの職員さんは仕事とはいえ、殺処分を施すことに精神的にストレスを抱えていた中、こうした引き取り先があることに少し喜びの表情を見せてくれた。



代表者の「最近センターの職員さんは明るくなった！」の一言が本当に印象的であった。

犬猫の「殺処分ゼロ」を目指すという事は、老衰や傷病の犬猫を引き取ることが絶対条件である。その為にかかる「人、物、金」に関して代表者に質問した。

「人」は、少ない正職員とボランティアでの対応。しかし、命は待ってくれない中で、ボランティアスタッフに頼るといのはいささか不安定ではないかと思っただが、中谷代表の明るさと命に対する強い想いに共感するボランティアスタッフが自ずと集まるようだ。

「物」は、いたって簡素な感じがした。柵や階段などは現場工事で使用されている足場材やベニヤ板、薄めの鉄網などを充てている。ちなみに獣医さんが対応できる診察室も簡素ではあるが常設されている。トイレ用の新聞紙は新聞屋さんが古紙を持ってきてくれるなど近隣の援助もあるようだ。



「金」は、基本的に行政などからの補助金はないとのことだが、企業などからの多額の寄付を受けているようだ。当日は通販会社大手のフェリシモさんの「猫部」のスタッフさんと漫画家さんが取材に来ていた。こちらも寄付や支援をしてくれる主要企業のひとつとのこと。



また、ソフトバンク社の「かざして募金」などの1回の寄付が100円と少額な仕組みを利用して月額60万円程度の寄付があり運営できているとのことであった。

### [考察と岡崎市への反映について]

愛知県において、約700匹の犬と約800匹の猫が殺処分されるとのこと。「殺処分ゼロ」というのは非常に好感であり、是非とも岡崎市にもそういった場所ができてほしいと考える。

犬猫の運動ができるような広い場所、近隣に迷惑がかかりにくい場所などの建設には様々な条件がありますが、岡崎市の額田方面の中山間地にはそういった場所があるのではないかと考える。

運営については、ふるさと寄付金などの仕組みを利用するなどの、広範囲で支援してもらえるように環境を整えることも必要と考える。

しかしながら、一番の問題点は「人」と考える。ただの犬猫好きでは継続していくことは難しい。動物医療や扱い方などの知識をもち、この企画を強く推進していく「推進力」となる人材が必要と考える。

今回の視察で、犬猫のこと、設備のこと、お金のこと、そんなことよりも、小さな命に対して、人生をかけて目的に邁進できる人材が最も重要であると確信した。